

1-1-1. 六甲山地はこんな山



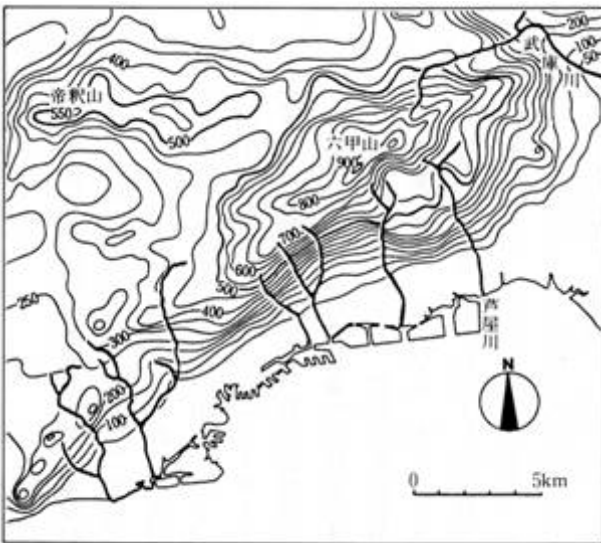
マップ⇒

1

六甲山地は、須磨から宝塚まで東西に約30kmのびています。その標高は、最も高いところで1,000m近くあります。

六甲山地を飛行機から見ると、巨大な岩の塊が突き出ているように見えます。この塊の上の部分は他の山に比べて平らになっており、六甲山地の特徴の一つといえます。

私たちの街は、六甲山地の中央部に位置する再度山や摩耶山などを背山としてしています。



六甲山地の地形図(田中原図)

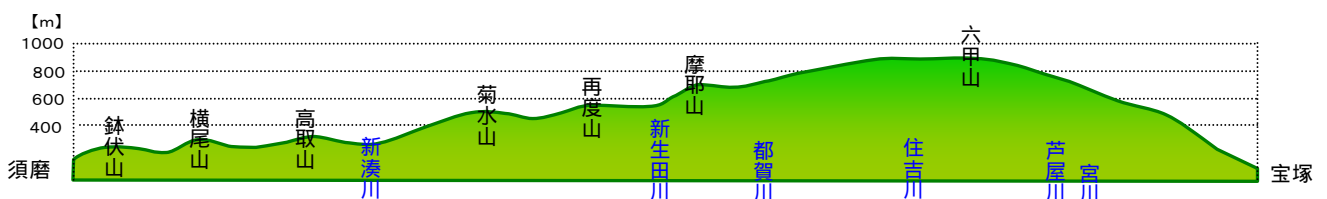


六甲山山頂
標高:931m ▲

六甲山山頂の上空からポートアイランド方面の眺め



神戸市と六甲山地の様子(ポートアイランド方向から)



六甲山地の断面イメージ(須磨～宝塚)



どうして六甲山地から見る夜景はきれいなのか知ってる？

六甲山地から見る夜景は、一千万ドルの夜景と呼ばれ、北海道の函館山^{はこだて}や長崎県の稲佐山^{いなさ}から見る夜景と並び、日本三大夜景として知られています。

きれいな夜景を見ることができる条件として、以下のようなものがあげられます。

高い山がある

夜も明るい街がある

海があって、街の明るさを引き立てる空気が澄んでいて遠くまで良く見える



六甲山地から見た夜景

新生田川の上流では、布引ハーブ園^{ししょうざん}や市章山^{いかりやま}、錨山などが夜景スポットとなっています。



六甲山地に登って、私たちの暮らす街を眺めてみよう！！

1-1-2. 六甲山地のタイムトラベル



地球はプレートと呼ばれる10数枚の固く大きな岩の板におおわれています。日本列島の付近では、4枚のプレートがゆっくりと動き続けています。この動きが日本列島や六甲山地の形成、地震の発生などに大きく関わっています。

六甲山地に見られる古い地層（土砂などが長い間に積み重なってできた層）が造られた約2億年前から、現代までを下の年表は示しています。また、2億年間を1年間とした場合の月日を【 】内に表しています。



プレートのイメージ



2億年のタイムトラベルに出かけよう！！

年表(約2億年前～現代)

約2億年前 【1月1日】

丹波層群の形成

・このころ、日本列島は海の底にあり、六甲山地で見られる古い地層『丹波層群』が、海底にできました。



約7,500万年前 【8月17日ごろ】

六甲花こう岩の形成

・火山活動が活発な時代で大量のマグマが造られました。このころ、六甲山地の大部分に『花こう岩』ができました。

約3,500万年前 【10月28日ごろ】

神戸層群の形成

・激しい火山活動により大量の火山灰が降り続けました。この火山灰と土砂などが厚く積もり『神戸層群』ができました。

約1,500万年前 【12月3日ごろ】

日本列島の誕生

・さらに火山活動は活発化し、アジア大陸から現在の日本海辺りが引きさかれ『日本列島』が誕生しました。このころ、花こう岩は地表に姿を見せました。また、六甲山地の付近は低い丘で淡路島とも陸続きでした。



約300万年前 【12月25日ごろ】

大阪湖の誕生

・日本列島は、火山活動や断層運動（断層が上下、左右にずれる運動）を繰り返していました。このころ、現在の大阪湾一帯は沈み、大きな『大阪湖』ができました。一方で、六甲山地の地域は盛り上がり始めました。

約100万年前 【12月29日ごろ】

六甲変動の時期

・さらに、六甲山地は高く盛り上がり続け、湖の辺りは深く沈み、海とつながり『大阪湾』が誕生し、ほぼ現在の地形となりました。こうした大地の動きは『六甲変動』と呼ばれています。

約6,000年前 【年明け約12分前】

縄文時代の海岸線

・日本列島では縄文時代の文化が栄えました。そのころ、海面は現在より3m程度高く、当時の海岸線を『縄文海岸線』と呼んでいます。

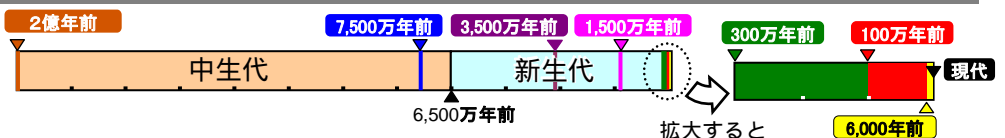
現 代 【年明け直前】

兵庫県南部地震の発生

・平成7年（1995年）、『兵庫県南部地震』が発生したように、六甲変動と呼ばれる大地の動きは現在も続いています。



2億年って、すごく長い年月なんだよ



地球の歴史の中で、地質学的に測定できる時代を地質時代といいますが、2億年前以降は、中生代と新生代と呼ばれる時代に大きく区分されます。なお、中生代は恐竜が息絶している時代とほぼ同じで、新生代は恐竜が絶滅した後の時代に当たります。

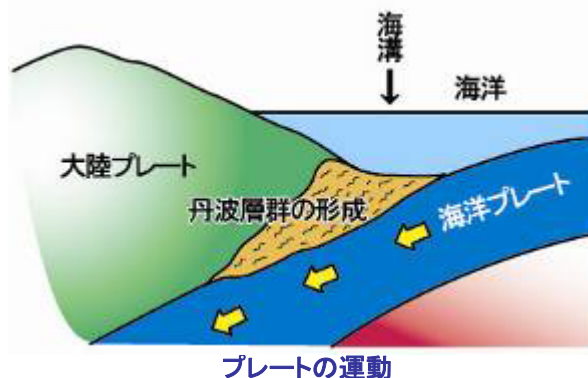
約2億年前：丹波層群の形成



六甲山地で見られる古い地層だよ！

プレート同士がぶつかる所では、泥や砂がどんどんたまります。そこに海洋プレート上にできたチャート（放散虫などのプランクトンの死がい^{ほうさんちゆう}が固まってできた岩）、石灰岩（サンゴなどの死がい^{せっかいがん}が固まってできた岩）などが加わってできた地層が、丹波層群です。

このころの日本列島は、アジア大陸の端の海底^{はし}にありました。



どうして丹波層群と呼ばれているの？

この地層は、六甲山地の北に広がる丹波地方に広く分布しているため、この名前と呼ばれています。このように、地層の名前は、分布している地域の名前^{はんい}が付けられています。なお、丹波層群の分布範囲は限られています。

約7,500万年前：六甲花こう岩の形成



火山活動で大量のマグマが造られたんだ！

六甲山地の大部分は花こう岩でできています。この岩を六甲花こう岩といますが、日本列島がまだ海の底にあったころに、マグマが地下の深いところで、ゆっくりと固まってできたものです。



御影石^{みかげいし}って呼んでる石が、花こう岩なんだ！

花こう岩は、高級な石材として御影石と呼ばれています。御影石という名前は元々、六甲山地ふもとの御影地域で採れる花こう岩の石材名でした。現在では、各地の花こう岩を含めた石材の名前として、広く使われています。

花こう岩は硬い岩ですが、雨や風に長くさらされると崩れやすくなります。これを「風化^{ふうか}」^{かた}と^{くず}いいます。現在の六甲山地はかなり風化が進んでいると考えられます。この花こう岩が風化してできた土を「マサ土^{まさつち}」と^{つち}いいます。



硬い花こう岩



崩れやすい状態

約3,500万年前：神戸層群の形成



植物化石が含まれている白い地層だよ！

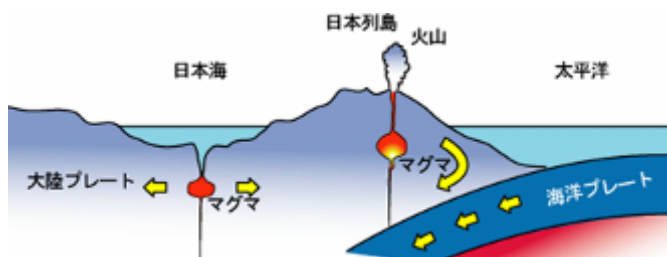
アジア大陸では大きな河川が何度もあふれ、大量の土砂が海沿いまで運ばれました。また、同時に大量の火山灰が降り続き、「神戸層群」と呼ばれる層ができました。

約1,500万年前：日本列島の誕生



このころ、花こう岩は地表に姿を見せたんだよ！

アジア大陸の端では火山活動がさらに活発になり、地表が盛り上がりました。また、大陸の端が海洋プレート側に移動して、現在の日本海辺りが引きさかれ、それが広がって海につながり、アジア大陸から離れた部分が日本列島となりました。



大陸プレートと海洋プレート

約300万年前：大阪湖の誕生



人類の祖先が誕生したのは、もっと以前の約700万年前なんだよ！



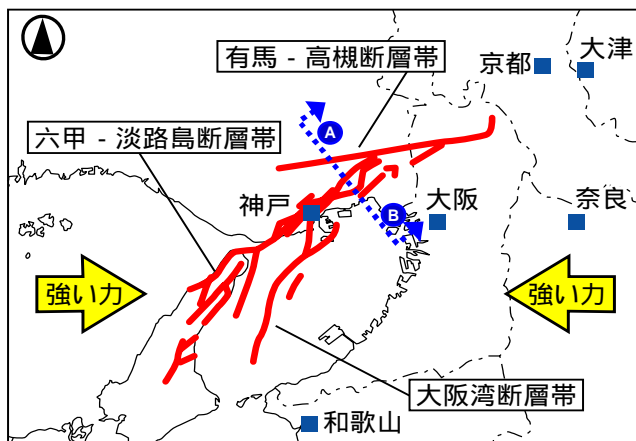
六甲山は、火山活動によってできたの？

日本列島では火山活動が活発でしたが、六甲山は、現在の阿蘇山や雲仙岳などのような、噴火のおそれはありません。それは、六甲山が火山活動とは違う原因でできた山だからです。

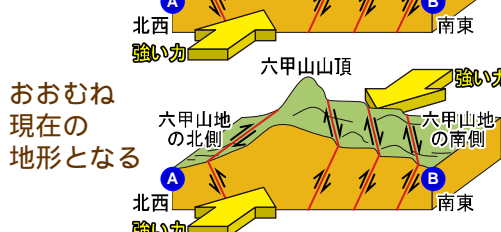
六甲山地は、有馬-高槻断層帯と六甲-淡路島断層帯が交わる位置にあります。今から約300万年前より、この断層帯に東西から強い力を受け、断層運動（断層が上下、左右にずれる運動）を繰り返していました。この断層運動により現在の大阪湾一帯は沈み、大きな「大阪湖」ができました。

その後も東西方向の強い力による断層運動は続き、それまでなだらかだったこの地域は盛り上がり始めました。こうした地表の動きを六甲変動と呼んでいます。

*) 以前は、「約400万年前」と考えられていましたが、日本列島に作用した強い力の向きの変化をみると、最近では「約300万年前」と考えられています。



神戸周辺の活断層



六甲変動イメージ(A - B 断面)

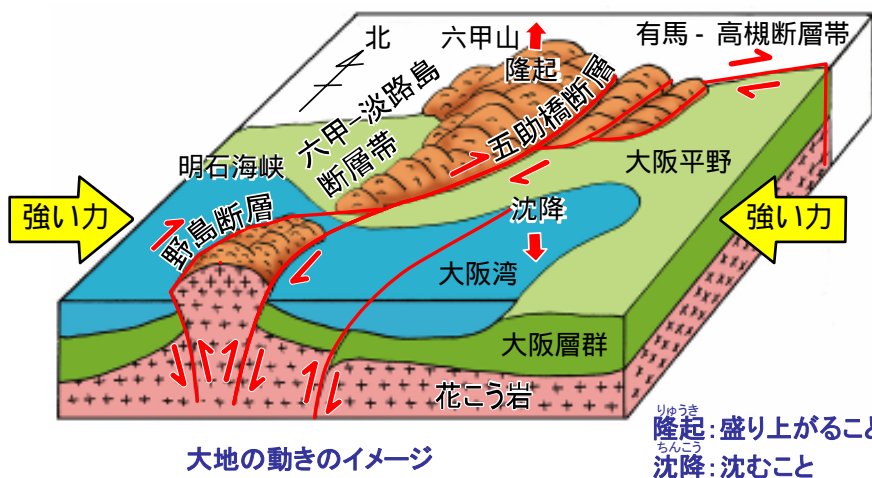
約100万年前：六甲変動の時期



このころ、おおむね現在の地形になったんだ！

さらに、この地域は、大陸や海底のプレートの動きにより、東西からの強い力で押され、断層運動が続きまして。

高く盛り上がった場所が六甲山地となり、深く沈んだ大阪湖は、海とつながって大阪湾となりました。ほぼ現在の地形の誕生です。



大地の動きのイメージ

隆起: 盛り上がること
沈降: 沈むこと

約6,000年前：縄文時代の海岸線



この海岸線を、縄文海岸線っていうんだ！

気候は、最後の氷期が終って温暖になり、人類は農耕を始めました。

また、日本列島では縄文時代の文化が栄えました。このころの海面は北半球の大陸を広くおおっていた厚い氷が溶けて、今より3mくらい高かったと考えられています。神戸市役所の辺りは海でした。



縄文海岸線の位置



約6,000年前の海岸線を見ることができるんだよ！

元町駅の北側は六甲山地に向かって急な上り坂になっています。これが縄文時代の海岸線で、約6,000年前に波でけずられてできたがけの跡です。

がけの跡は東西方向へ続いていることがわかりますが、東の方へ行くとわかりにくくなっています。これは旧生田川(19P参照)の水が何度もあふれ、がけの跡が消えてしまったからだと考えられています。



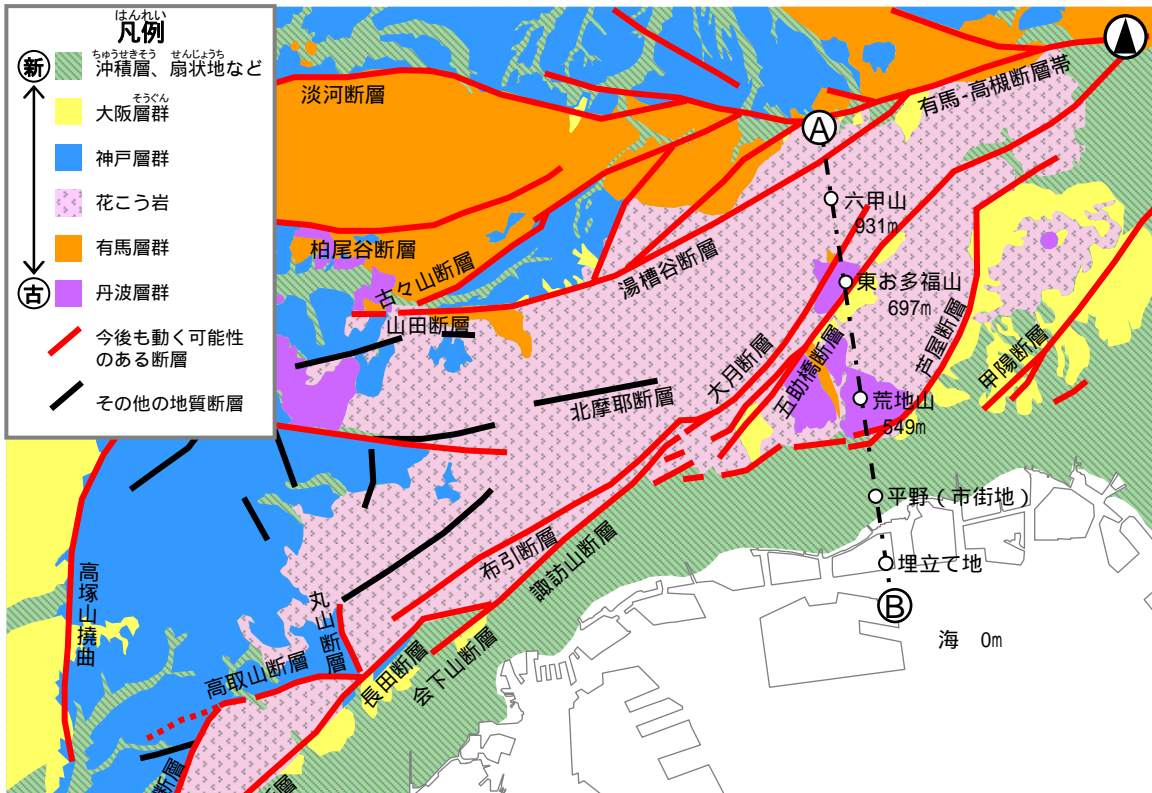
縄文時代の海岸線(がけの跡)

現代：兵庫県南部地震の発生

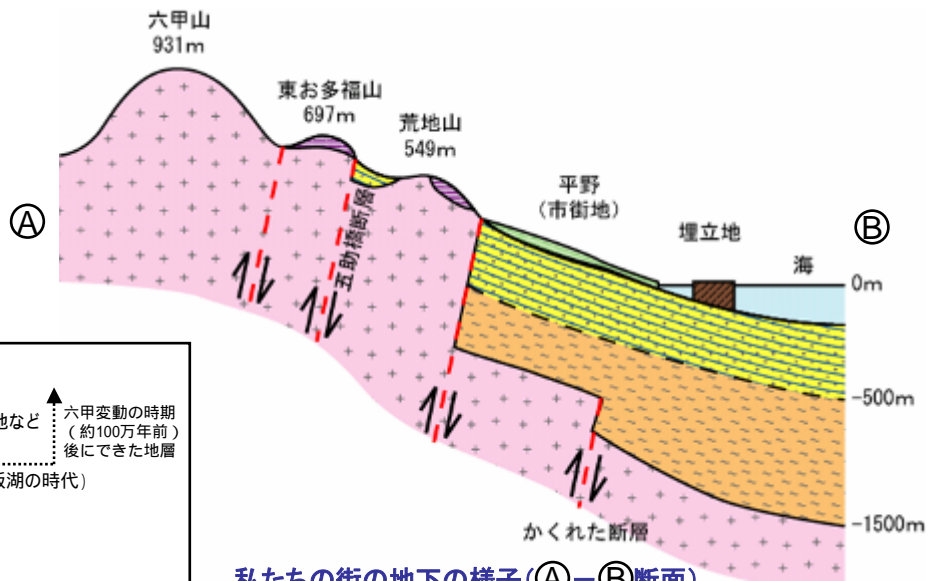


地面の動きは、今も続いているんだ！

私たちの街は、約100年間で六甲山地のふもとから、山と海に向かって発展してきました。私たちの街の地下には、六甲変動^{へんどう}を物語る岩石や地層など2億年の歴史が埋まっています。平成7年（1995年）に発生した兵庫県南部地震も、これまでの大地の動きの一部なのです。



地質概要図(大阪湾周辺地域数値地質図参考)

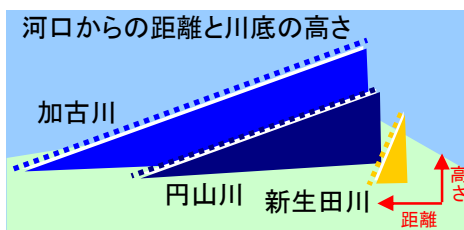


私たちの街の地下の様子(A-B断面)

1-1-3. ゆるやかな斜面に広がる私たちの街



六甲山地から流れ出る川は、急流であるため、大雨のたびに大量の土や石（風化した花こう岩を含む）を下流へ運んできました。急流は平地に出ると流れが遅くなり、運んできた土砂がたまるようになります。こうしてできた土地を扇状地といいます。



私たちの街は、「扇状地」の上にあるって知ってた？

急流の出口では、土砂がたまって土地が高くなります。大雨が降ってあふれた水は高いところを避け、低いところを選んで流れます。

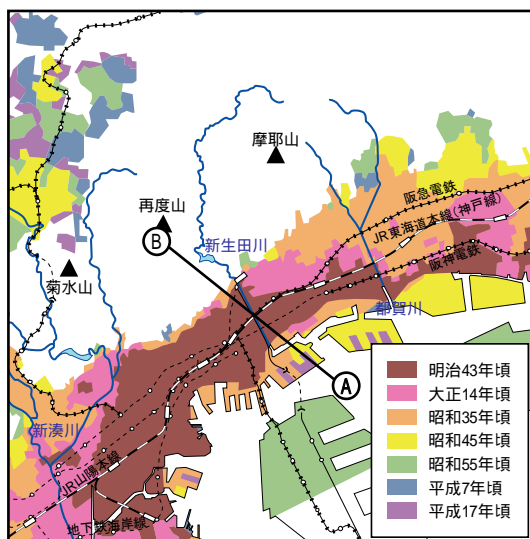
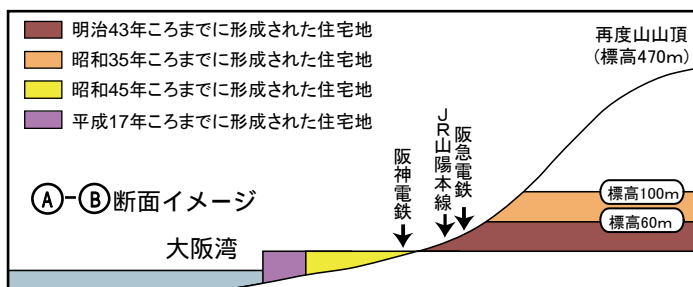
そして、洪水のたびに、扇を広げたように土砂を積もらせ、広がっていきます。私たちの街は、こうしてできた扇状地の上にあります。



新生田川周辺の扇状地
(参考: 阪神淡路大震災と六甲変動)

昭和30年（1955年）ごろと比べると、神戸市の人口は、約1.5倍に増加しています。

こうした人口の増加にともない、私たちの街は、扇状地から六甲山地をはい上がって大きく広がってきました。



六甲山地の住宅地のひろがり

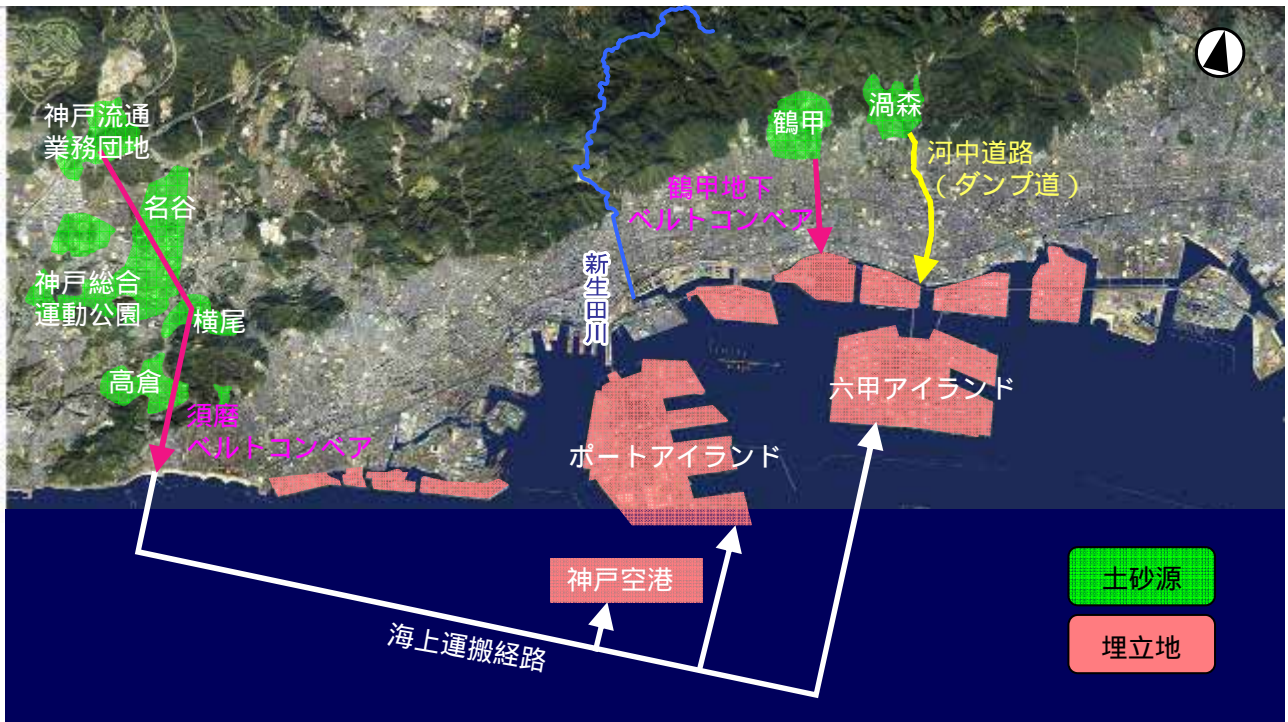


みんなの家は、いつごろできた住宅地にあるのか、地図を使って調べてみよう！！



「山、海へ行く」って、どういう意味？

高度経済成長期以降、神戸市は「山、海へ行く」を合言葉に、六甲山地をけずり、その土砂で海を埋め立て、ポートアイランドなどを造りました。これにより、私たちの街の海岸線は大きく変わってきました。土砂をけずった跡地は、住宅地や産業団地として開発されました。



神戸港の埋め立て計画昭和38年(1963年)当時

ポートアイランドや神戸空港、六甲アイランドを埋め立てるための土砂は、名谷山みょうだにやまや横尾山よこおやま、高倉山たかくらやまなどをけずり、須磨ベルトコンベアで海岸まで運ばれ、その後、船で埋め立て地まで運ばれました。



菊水山から見たポートアイランドと神戸空港

1-2. 神秘を語る断層 ～六甲山地から歴史ロマンを探る～

六甲山地は、およそ100万年前に誕生しました。

六甲山地が世界有数の断層の多い山地であることは、広く知られています。六甲山地に見られる数多くの断層は、この山の生い立ちに深く関わっています。

六甲山地の断層について調べると、私たちが暮らす街の神秘を探ることができます。



ぬのびき
布引断層があらわれているところ

1-2-1. 六甲山地の断層



六甲山地には多くの断層があります。新生田川は下の写真に示すように、3つの大きな断層と交わっています。

1つは、諏訪山断層で、新神戸駅はこの断層の上に造られています。その北側に布引断層があり、布引貯水池の近くでこの断層を見ることができます。さらに高雄山より北側で万福寺断層と新生田川が交わっています。



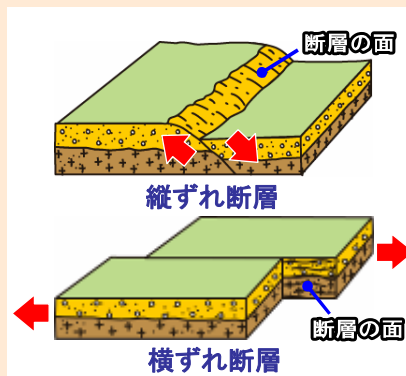
新生田川周辺の断層分布図



断層ってどんなもの？

岩盤に強い力が加わり、地面や地層・岩盤などが割れて、ずれたところを断層といいます。

断層は、地面が上下方向にずれ動いてできた「縦ずれ断層」と、水平方向にずれ動いてできた「横ずれ断層」の2つに大きく区分されます。なお、断層の名前は一般に断層が地表において確認できる場所の地名が付けられています。





断層って見たことある？

布引断層は、岩のさけ目のように見えますが、硬い花こう岩が1mぐらいの幅でもろくなって、水を含む粘土となっています。

これは断層が動いた時の力で、割れたり、つぶされたりしたからです。このようなところを断層破碎帯（断層に沿って岩石がこわされたところ）と呼びます。

断層破碎帯はまわりの岩に比べ、けずられやすいので、その方向に谷ができることがあります。



布引断層の様子



六甲山地では二種類の花こう岩が見られる！

一般的な花こう岩は、白い鉱物（セキエイ・長石）と黒い鉱物（黒ウンモ）が混じった岩石で、全体に白っぽい色をしています。布引貯水池の辺りで見ることができる花こう岩は、布引花こうせん緑岩と呼ばれ、カクセン石を含めたため黒っぽい色をしています。

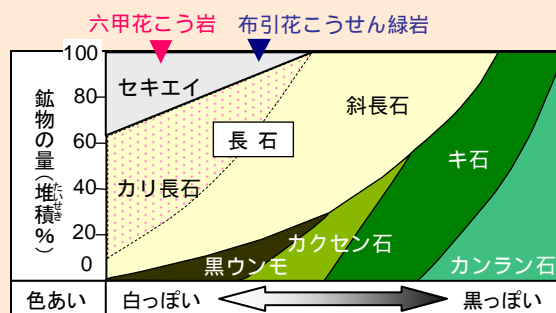
さらに、森林植物園の方へ歩いていくと、途中で薄いピンク色に変わります。これを六甲花こう岩といい、「御影石」とも呼ばれています。ピンク色の正体はカリ長石という鉱物です。



布引花こうせん緑岩



六甲花こう岩



岩にふくまれる鉱物の割合と色合いの関係



布引貯水池に断層を観察しに行ってみよう！！

1-2-2. 日本三大神滝 布引の滝



マップ⇒

6

7

9

2

新神戸駅から山を登っていくと、4つの滝に出会います。下流から順に雌滝、鼓ヶ滝、夫婦滝、雄滝があり、4つの滝を合わせて布引の滝といわれます。

雄滝を見ていると、断層によってできた地形であることがよくわかります。上流側の山が下流側に比べて大きく上昇したために雄滝が誕生しました。

布引の滝は、那智の滝（和歌山県）、華厳の滝（栃木県）と並んで、日本の三大神滝といわれています。



雄滝



夫婦滝



鼓ヶ滝



雌滝



布引の滝への道は、「歌碑のみち」と呼ばれているんだよ！

平安時代から多くの貴族や文人が、布引の滝を訪れて、数々の和歌を残しました。

新生田川河口から布引の滝までの散策路沿いに、和歌をきざんだ36基の歌碑があり、文学と歴史の散歩道「歌碑のみち」として親しまれています。



布引三十六歌碑の1つ

中央区のホームページで、布引三十六歌碑を紹介しています。

<http://www.city.kobe.lg.jp/ward/kuyakusho/chuou/shiru/nunobiki/>



かつて、どんな人たちが布引の滝を訪れたか、歌碑の道を歩いて確かめてみよう！！

1-2-3. 新神戸駅と諏訪山断層の関係


[マップ⇒](#)

9

新神戸駅は、諏訪山断層という将来も動く可能性のある活断層の真上にあります。新神戸駅の建設にあたっては、六甲山地と断層をさけて、六甲山地の北を通るルート案も検討されました。

しかし、神戸市民の強い要望により、六甲山地の南側に新神戸駅を造ることになりました。

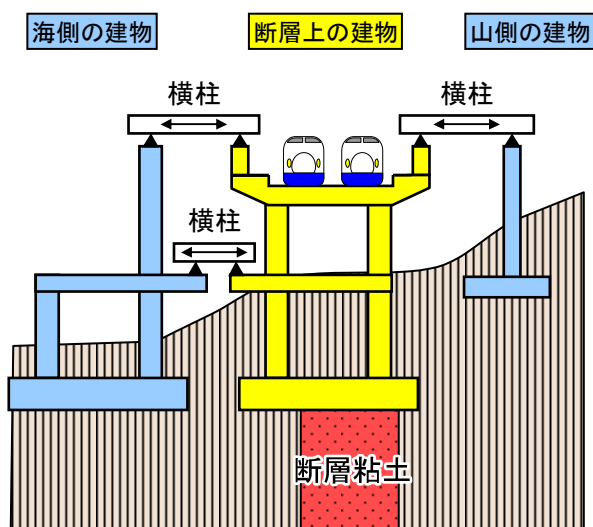
こうして新幹線は断層の多い六甲山地をトンネルで抜けることとなり、新神戸駅の建設にあたっては、断層についての最新の知識が取り入れられました。

新神戸駅は、3つの建物によりできていますが、断層上の線路が通る建物と両側の建物を別々のものとし、地震の時に別々に動くよう工夫されています。

なお、3つの建物は横柱でつながっていますが、地震の揺れに対して、あるていど自由に動く構造となっています。



新神戸駅周辺の様子



新神戸駅(3つの建物)の断面イメージ



新神戸駅構内(中央の建物)の様子



新幹線のトンネルを掘るのは大変だったんだよ！

新幹線は六甲山地の中をトンネルで抜けています。

当時のトンネルは、人間が機械を使って土の中を掘り進み造られました。

断層の部分掘る時には、大量の水が土砂とともに吹き出すなど多くの苦労がありました。



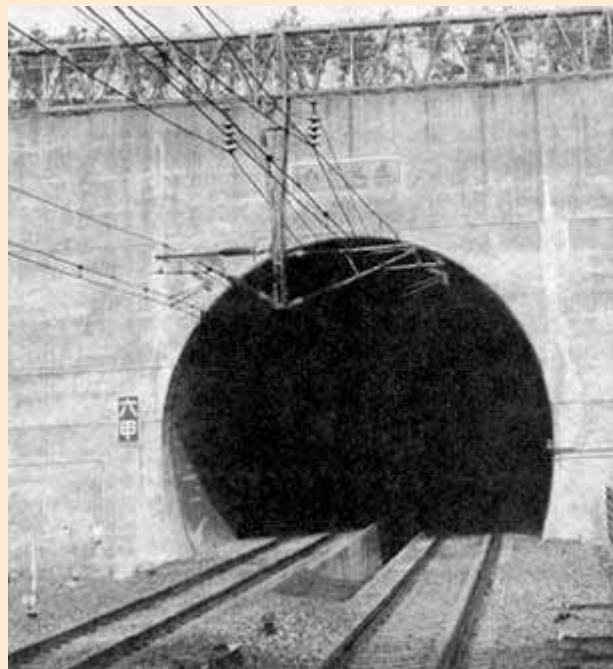
新神戸駅と山陽新幹線トンネル



滝のように噴出す水



くず
崩れ落ちた土砂



山陽新幹線六甲トンネル(昭和54年:1979年撮影)



トンネルと断層の位置関係を地図で調べてみよう！！

1-2-4. 六甲山地は今も生きているんだ



阪神・淡路大震災

平成7年（1995年）1月17日午前5時46分、淡路島の北側を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生しました。

この地震では、六甲 - 淡路島断層帯の一部である野島断層が地表に現れました。

野島断層は最も震源に近い断層で、この地震によって南東側が南西方向に約1～2m横ずれし、南東側が約0.5～1.2m盛り上がりました。また、六甲山山頂も12cm高くなりました。



野島断層の活動により生じた地表のずれと段差(野島断層保存館内)



震災の時、六甲山地はどうなったの？

六甲山地の広い範囲で山が崩れました。地震直後の調査では、770ヶ所の崩れた場所が確認されました。

その後の雨によって崩れが大きくなったり、新たに山崩れが起こったりしました。



山崩れの様子(芋川谷地区)

現在も地表の動きは進行中

「地震が少ない」といわれていた近畿地方でも、過去に多くの地震が発生しています。阪神・淡路大震災のような大地震の繰り返しによって、現在の六甲山地は造られてきたといわれています。このような地表の動きは、現在も続いています。



震災で崩れた山が今はどうなっているのか、確かめよう！！

1-3. 街に潤いをもたらす新生田川

私たちの街の中を流れる新生田川は、六甲山地の^{そまたに}杣谷峠付近から流れ出し、急な^{しゃめん}斜面を下って中央区を南に流れ、大阪湾に流れ込んでいます。

この川は、神戸の玄関口となる新神戸駅を含む街中を流れる川で、春には花見、夏には水遊びなどでにぎわいます。また、川岸でジョギングや散歩をする人も多く、私たちの街に潤いをもたらす憩い^{いこ}の場として、親しまれて^{した}います。

この新生田川沿いを^{さんさく}散策すると、様々な不思議な場所を発見することができます。



新生田川の風景

1-3-1. 付け替えられた生田川



マップ⇒

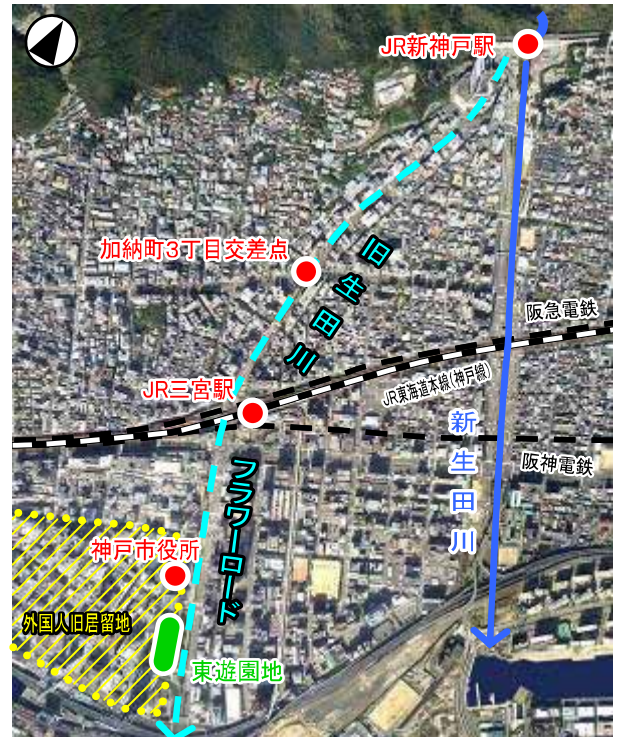
1 12 3 4

新神戸駅から、まっすぐ南に流れる新生田川は、その昔、現在のフラワーロードを流れていました。それは、旧生田川と呼ばれています。

旧生田川の川幅は約100m近くもあったため、川を渡るのが大変で交通の障害となっていました。また、ふだんは流れる水が少ないのに、大雨が降るとすぐにあふれるやっかいな川でした。

旧生田川の下流にあった外国人居留地（36P参照）の住民から、洪水対策を強く求められ、明治4年（1871年）に現在の場所を流れるように工事が行われました。

川の流れを人工的に替えることを「付け替え」といいます。



旧生田川と新生田川の位置図



かのう そうしち 加納宗七って知ってる？ 生田川と深い関わりがある人なんだよ！

加納宗七は、神戸で船を使って材木を運ぶ運送業を開業していました。その加納が中心となって自らの財産を使い、生田川付け替え工事を行いました。そして、わずか3ヶ月の期間で、現在の新生田川を完成させました。

加納は、旧生田川の跡地に、新しいまちづくりを進めました。この功績をたたえ、神戸の中心地には「加納町」という名が残っています。

加納町3丁目の交差点には、旧生田川が流れていたことを示す石碑が建てられています。また、東遊園地には加納宗七の銅像と石碑があります。



旧生田川址碑



加納宗七の銅像



かつて、川であったことを想像してフラワーロードを歩いてみよう！
川であった「あかし」や水害の記録などが残っているよ！

1-3-2. 玉石が多い旧生田川の地層

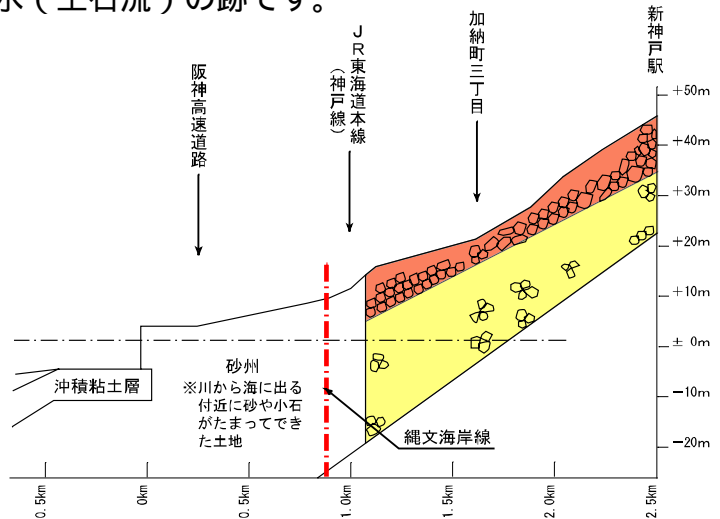


旧生田川の地層を調べると、丸みのある玉石がたくさんある層を見つけることができます。これは、土と石の混じった大洪水（土石流）の跡です。

これらの石は土石流が運んできたもので、洪水が旧生田川で何度も起こったことを物語っています。

玉石がたくさんあるのは上の方だけです。下の方ではところどころにしかありません。

石の少ない下の層は、大昔には洪水があまりなかったことを教えてくれています。



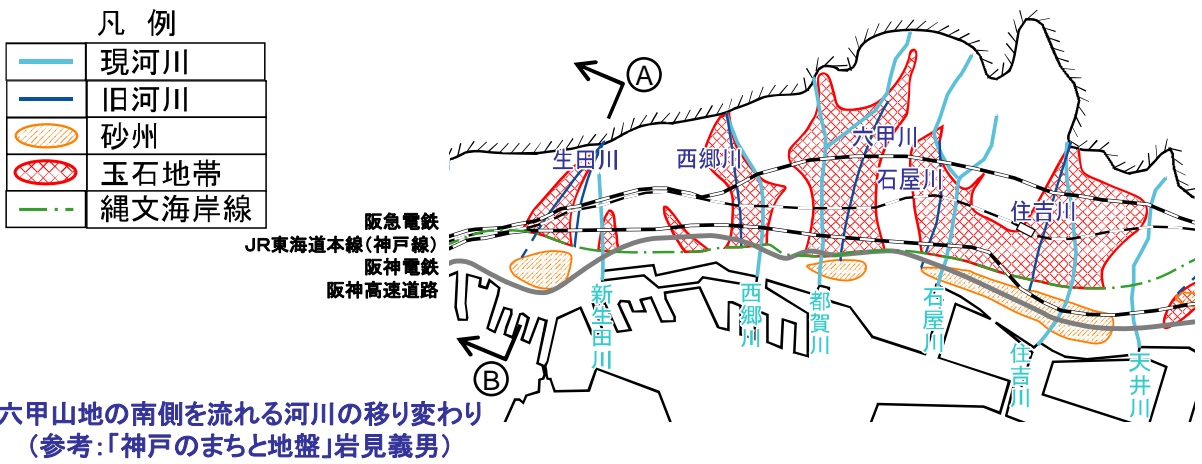
旧生田川の地下のイメージ(①-②断面)



旧生田川は、さらに昔、^{ちが}違う場所を流れていたんだよ！

旧生田川は、大雨のたびに大量の土や石を下流に運び、また、流れる場所を何度か変えながら扇状地（9P参照）を広げていきました。そのため、昔、川が流れていた場所の近くでは玉石が多く見られます。

これに対し人々は、洪水から暮らしを守るために、流れる場所を現在のように固定しました。



川の中に大きな丸みのある石があるか、探してみよう！！

1-3-3. 「天井川」だった旧生田川



マップ⇒

13

旧生田川は、川底が周辺の平地よりも高いところを流れる天井川となっていました。六甲山地のふもとの川では、石屋川、住吉川、芦屋川などが天井川となっています。



道路の上を流れる石屋川



鉄道の上を流れる住吉川



鉄道の上を流れる芦屋川

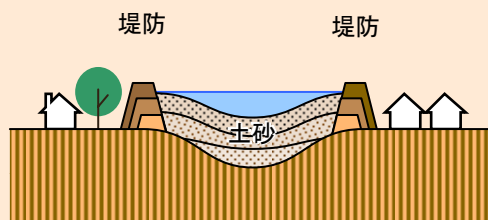


「天井川」は、どうしてできるの？

土砂が大量に流れ出る川では、川底に土砂がたまり、大雨のたびにあふれてしまいます。そのため、人々は川に沿って堤防を造りました。

しかし、その後も土砂は運ばれ続けて川底にたまり、水面が上がるため、人々はさらに堤防を高くしました。

これを繰り返すうちに、川底がまわりの民家よりも高くなり、天井川といわれるようになりました。旧生田川は、川の付け替えの後、川を埋め、フラワーロードとして利用しています。



天井川ができるイメージ



神戸市役所の東西の出入り口の階が違うのはどうしてかな？

フラワーロードに面して建てられている神戸市役所の2号館（東側）は、旧生田川の堤防の上にあります。

そのため、西側の3号館は東側より1階分低くなっており、天井川であったことがわかります。



神戸市役所2号館と3号館の高さ関係



神戸市役所2号館と3号館の高さの関係を、実際に行って確かめてみよう！！

1-3-4. 都会のオアシス 新生田川



新生田川は、昭和の初めころはフタがかけられ、街の地下を流っていました。

昭和13年（1938年）の阪神大水害では、この地下への水路の入口が上流からの土砂や流木などによりふさがれ、あふれた水が下流一帯に大きな被害をもたらしました。その後、新生田川のフタは取り除かれ、現在の新生田川の形ができました。

戦後に川沿いの公園整備が進みます。「ふるさとの川モデル河川」として、昭和63年度（1988年度）より桜なみ木や親水広場などが整備されました。今では、春の「さくらまつり」や夏の「水辺まつり」など、人々が川とふれあうイベントも行われ、市民に親しまれる都会のオアシスとなっています。



新生田川の桜なみ木



生田川公園



生田川公園には、水のモニュメントや中国風の建物があるよ！

新神戸駅から左岸に沿って下ると生田川公園があります。この公園には、わき水を引いた「水のモニュメント」や「連翼亭」があります。「連翼亭」は、神戸市と中国の天津市との友好を記念して建てられました。散歩途中の休憩など、人々の憩いの場として親しまれています。また、川沿いの桜が満開となる春には、たくさんのお花見客が訪れます。



連翼亭



連翼亭と南京町は、何か関係があるのかな？調べてみよう！！

1-3-5. 神戸の水がめ「布引貯水池」



マップ⇒

2 3 7 8

新生田川の上流には、神戸市民の飲み水を確保している布引貯水池があります。

明治時代、コレラなどの伝染病が神戸市で流行し、これを予防するために水道の整備が必要となりました。

布引貯水池は、その水源として造られました。後に、「水道市長」と呼ばれる市長鳴滝幸恭が、明治30年（1897年）に建設を始め、3年後に完成させました。

布引貯水池の下流には、水をふもとの浄水場にする取水塔や、水路橋（砂子橋）が、当時の姿のまま、今も役割を果たしています。



内部に配水管がある砂子橋



布引貯水池と周辺の様子



布引五本松えん堤は、日本で最初の水道専用ダムなんだよ！

布引五本松えん堤は、明治33年（1900年）に日本最初の水道専用のダムとして完成しました。現在も良好な状態で使用されており、全国的にも数少ない現役の水道施設です。

こうした文化財としての価値から、平成18年（2006年）に、国の重要文化財に指定されました。



布引五本松えん堤



昔は、街のまん中に水車があったんだよ！

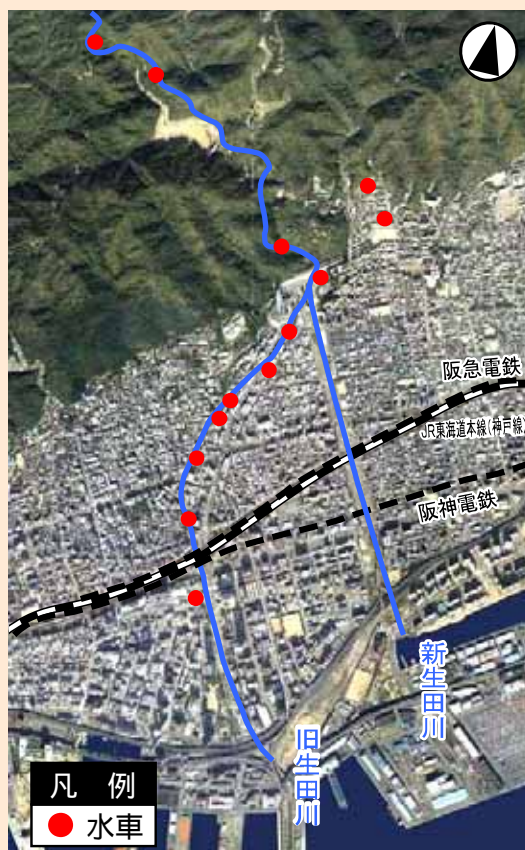
旧生田川の急な流れは、水車を回す大きな力を生み出し、古くから私たちの街に、水車を利用した産業を発展させました。

旧生田川沿いには多くの水車小屋が建ち並び、^{なたねあぶら}菜種油の油絞^{あぶらしぼ}り、酒造り用のお米の精米、そうめんの粉づくりなどの動力として利用されました。

現在では、水車の動力は機械に変わり、水車は姿を消してしまいました。



水車小屋で使用されていた石臼



水車小屋の分布(1885年当時)



^{ぬのびき}布引五本松えん堤^{てい}の横には、ふだんは見られない滝があるんだよ！

布引五本松えん堤の横には、布引貯水池が満水になってあふれた時にだけあらわれる滝があります。

ふだんはなかなか見ることができないので「五本松かくれ滝」と呼ばれています。



五本松かくれ滝



布引貯水池にある石臼^{うす}以外にも、水車小屋^{あと}の跡がないか探してみよう！！